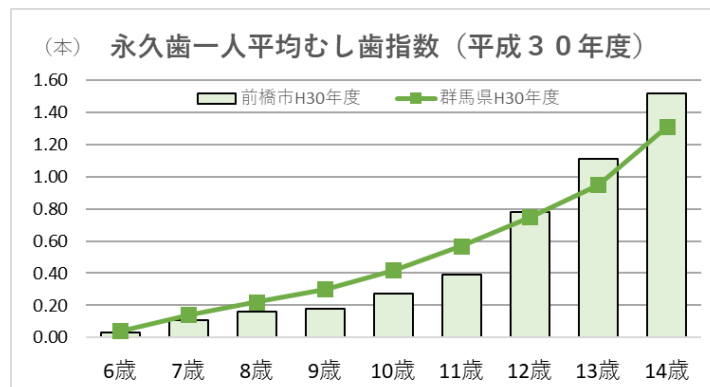


永久歯一人平均むし歯指数の改善に向けた取組について

前橋市の現状



	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳
前橋市H30年度	0.03	0.11	0.16	0.18	0.27	0.39	0.78	1.11	1.52
群馬県H30年度	0.04	0.14	0.22	0.30	0.42	0.57	0.75	0.95	1.31

- 永久歯一人平均むし歯指数は、12歳で急激に増加し、群馬県の平均を上回る。
- 令和元年度、元気県ぐんま21（第2次）目標の変更に併せ「12歳児の1人平均う歯数」の目標値を県・市ともに0.5本（令和5・2023年度）に修正した。

原因として考えられること

- ・全国的に第一大臼歯にむし歯となる人が多い。
- ・小学校高学年になると、保護者による仕上げみがきが終了してしまい、同時に保護者の口腔への関心が薄れてしまうのではないかな。
- ・部活動や習い事等で時間が取れず、定期的な歯科受診は困難になるのではないかな。
- ・生活習慣が変化し、むし歯が増加すると考えられる。
- ・1人で多数のむし歯保有者がいることも原因の一つと考えられる。

対応状況

- ・中学校における歯と口の健康教室を計画的に実施。
- ・小学校における歯と口の健康教室における刷掃指導についても継続して実施。
- ・保育所（園）、幼稚園、認定こども園の年少から年長の園児への刷掃指導時に、保護者への周知も実施(保護者不参加の場合は資料を配布)。
- ・歯科に関する学校保健委員会(依頼のある学校)において、前橋市の歯科保健の現状や定期的な歯科健診の重要性を伝える。
- ・出前講座にて、小学校等からの依頼により歯科衛生士が出向き、刷掃指導の実施や定期的な歯科健診の重要性を伝える。

庁内の今後の取組

■本人への働きかけ

小学生の興味や関心を引きそうな歯科のトピックスと生活習慣を紐づけて周知する。

例1) 奥歯でしっかりかむことができると、運動するとき本領発揮できる！

例2) 永久歯は一生使う歯、定期健診で要治療の歯を放っておかない！

例3) だらだら食べずに、歯磨きをきちんとすると健康な歯が保てる！

■保護者への働きかけ

【幼少期】

- ・5歳児就学前健康診査アンケートで、保護者へ定期健診を促すチラシを同封する。

【幼少期・学齢期】

- ・仕上げみがきの重要性を伝えると共に、仕上げみがき終了後には定期的な歯科受診が必須であることを周知する。

【学齢期】

- ・歯科健診結果を伝え、永久歯をむし歯にしないために正しい生活習慣を送ることの大切さを周知、家庭でも実行を促す。

■養護教諭への働きかけ

- ・養護教諭部会における情報共有

→庁内歯科衛生士が養護教諭部会に出向き、歯科保健の現状について情報共有を図る。

- ・体や歯に良い食習慣の周知の1つとして、体や歯に良い飲み物の周知を図る。